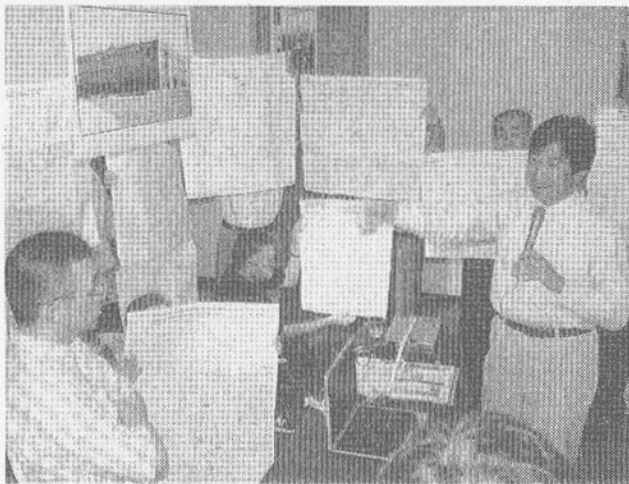


札幌の将来像考えよう

市民グループ「連夜のまち語り」開催



欧州の交通地図を広げながら、使いやすい公共交通を学んだ

てんずること、経営が成り立つとした。

この催しは五日まで、毎日午後七時から九時まで行う。

四日午後四時から六時には、講師全員が参加した「さっぽろ都市生活デザイン会議」も開かれる。

過去の札幌の姿を振り返りながら、将来像を考える「連夜のまち語り」が一日夜、札幌市中央区北一西三のマリヤ手芸店三階ギャラリーで始まった。初日は、新型路面電車「LRT」を中心街活性化の核にと主張している「LRTさっぽろ」の吉岡宏高代表が、市民が利用しやすい交通体系について話した。

(佐藤 元治)

札幌のまちづくりを考へる市民グループ「まち語る」(川口剛代表)の主催。スライドを見ながら題して講演した。

吉岡代表は、二百四十きもの市電網を持つヨーロッパの首都ウィーンなどを例に「公共交通が便利になれば、車が減って、歩行者中心のまちになる」と説明した。

また、市電とバス、地下鉄すべて八日間乗りの放題の切符が、二千五百円で買えると紹介。赤字を他の公営企業の収益で補